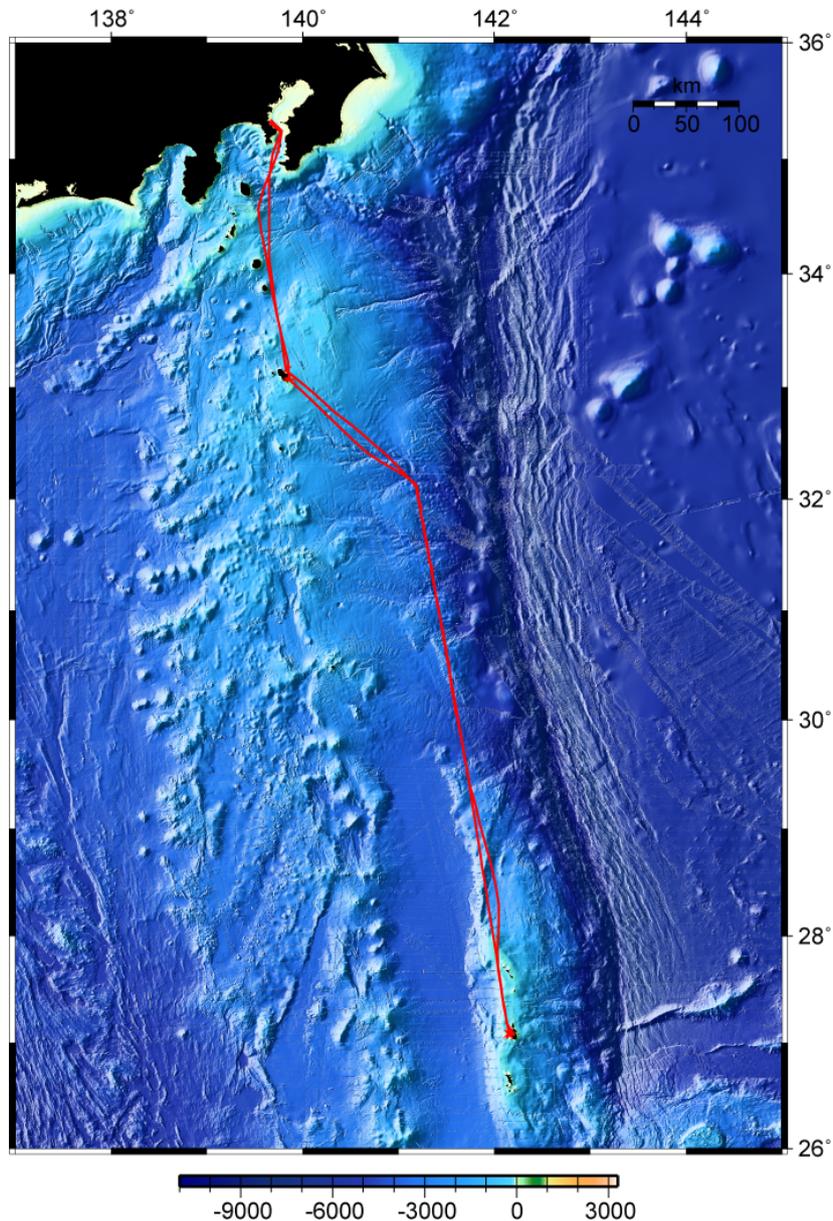


クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KY08-E03・かいよう
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成20年度「伊豆小笠原海域における地震探査調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：小平秀一・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：
深尾良夫・海洋研究開発機構、
- (5) 課題受付番号・研究課題名：
1) 伊豆小笠原島弧の地殻進化過程解明 -IODP Project IBM 為の構造研究-
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：
平成20年11月6日～11月21日・機構～機構
- (7) 調査海域：伊豆・小笠原海域
- (8) 船舶の航跡図：



2. 本文：

(1) 目的：

平成 20 年度所内研究課題「伊豆小笠原島弧の地殻進化過程解明 -IODP Project IBM の為の構造研究-」の一環として、海洋調査船「かいよう」により、80 台の自己浮上式海底地震計 (OBS) の設置・回収および大容量エアガンアレーシステムを制御震源として用いた屈折法・反射法地震調査を実施する。

また、反射法地震探査で見られる海洋サーモクライン付近の微細構造の物理的性質を解明するために、KR08-14 航海で実施する調査に合わせ、測線上の 20 測点において投下型流速プロファイラ (XCP) と投下型温度塩分プロファイラ (XCTD) を用いた観測を行う。調査作業は OBS の設置・回収、エアガン発振、海洋観測である。

(2) 実施項目：

1) 海底地震計 (OBS) 設置・回収

鳥島東方の海域を南北に縦断する測線(KT04 測線)上で OBS61 台を 5km 間隔で設置し、探査終了後回収を行った。

2) 屈折法地震探査 (海底地震計とエアガンを用いた観測作業) (KT04)

本航海で設置した海底地震計と、震源に KR08-E03 航海で実施した反射法地震探査調査のエアガン発振を用いた屈折法地震探査を行った。エアガンの発振間隔は 50m とした。

3) 海洋観測 (海洋観測測線)

KR08-E03 航海で実施した反射法地震探査調査に合わせ、約 1 時間毎に KT04 測線上の 20 測点において投下型流速プロファイラ (XCP) と投下型温度塩分プロファイラ (XCTD) を用いた観測を行った。

4) 海底地形観測

測線上にてマルチビーム測深器を用いて海底地形データを取得した。

5) 流向流速観測

観測海域にてAcoustic Doppler Current Profiler (ADCP)を用いて流向流速データを取得した。

6) XBT

海底地形調査の音速補正用に XBT を実施した。